

立教大学広告研究会＜年譜＞

立教大学広告研究会 <年譜>

昭和	広 研 の 歩 み	社
28年	成田先輩、友人より森永後援のキャンプストアへの参加を要請される。	〔2月〕NHKテレビ放送開始。 〔12月〕東京青山にスーパー出現。
29年	・広告研究会を創部してキャンプストアの参加を申請。 ・2月 千葉・館山の北条海岸に開設を決定。 ・7月16日 第一回キャンプストアを開設。	〔7月〕陸・海・空の自衛隊発足。 〔9月〕ビキニの死の灰で第5福竜丸の
30年		〔1月〕10円牛乳運動開始（主婦連）。 〔11月〕自由民主党結成、保守合同。
31年	・女子会員が初めて入部（2名）。	〔5月〕売春防止法公布（翌年施行）。
32年	・同志社広研と、文化祭でエール交歓。	〔10月〕5千円札発行。
33年	・ネオン見学会を行なう（銀座にて）。 ・小山先生ご多忙により平井先生に部長を依頼する。 ・会報を創刊（ガリ版刷りで4～8頁もの）。 ・キャンプストアに女子部員が初めて参加。	〔2月〕日劇ウエスタンカーニバル。 〔11月〕「こだま運転開始／皇太子妃決定 〔12月〕1万円札発行。
34年	・広研バッジを作成。 ・消費者の広告に対する関心度調査。 ・デパート客層調査を実施。	〔2月〕東芝カラーテレビ第1号完成。 〔9月〕「国産車「三菱500」発表。 〔12月〕CMガール第1号デビュー。
35年		〔5月〕グアム島で2人の元日本兵発見。 〔8月〕インスタントコーヒー発売。 〔12月〕「国民所得倍増計画」決定。
36年	・安保闘争のデモ行進に参加。 ・東広連主催の第一回学生ポスター展を西武デパートにて開催。 ・立教祭で本館に初めて展示会場を設置。	〔11月〕「アンネ」発売。 〔12月〕スーパー「ダイエー」開店。
37年	・会員160名（女子会員60名）。	〔2月〕東レのシャーベットキャンペー 〔5月〕「流通革命」論議が起こる。 〔9月〕サリドマイド剤の発売中止。
38年	・会員総数200名以上の大世帯に。 ・三年全員で春休み清里の清泉寮にて合宿。 ・広研史上で初めて、学生広告展にて総合優勝。	〔6月〕東レ、パカンスルック発表。 〔11月〕ケネディ大統領暗殺される。
39年	・コミュニケーションの活性化を図り学年ミーティングと女子相談役を新設。 ・OBとの交流を密にするOB係を新設。 ・朝日調査の援助打ち切りで三年連続のテーマ「輸出入品広告の生態」の集大成動揺する。 ・館山のキャンプストアの土地を購入(学校法人 立教学院で登記)。 ・マンモス化に対応、会則を改正し一部役員を公選別にする。 ・OB会の規約を作成し承認される。	〔4月〕海外渡航自由化。 木島則夫モーニングショー始ま 〔5月〕「平凡パンチ」創刊。 〔10月〕「東海道新幹線」運行開始。東
40年	「 館山のキャンプストアの土地を購入 」は昭和40年の間違い※昭和42年卒杉田氏より資料あり	〔8月〕「ザ・ベンチャーズ」ブーム。
41年		〔6月〕ビートルズ来日。郵便料金値上
42年		〔1月〕ラジオ受信料が無料となる。 〔12月〕CMソング「イエイエ」発表。
43年	・森永が突然スポンサーから降り「立教大学広告研究会CS」として第一歩を踏みだす。 ・前期試験が7月中旬に変更され、合宿期間を7週から5週に短縮。	〔1月〕米原子力空母「エンタープライ 〔6月〕東大紛争で機動隊導入など、大
44年	・同志社広研との交歓、学園紛争で最後となる。	〔5月〕東名高速道路開通。
45年	・大学紛争に揺れ動く。 ・市場調査の打ち切りで調査班解体。	〔3月〕日本万国博開会。赤軍派「よど 〔8月〕銀座で歩行者天国が始まる。
46年		〔5月〕国鉄「ディスカバージャパン」キ
47年		〔2月〕札幌冬季オリンピック開幕。木 〔3月〕赤軍派、浅間山荘事件。 〔11月〕パチンコ24年ぶりに値上げ。
48年	・保健所の許可がおりず、キャンプストアにトイレを設置。	〔8月〕金大中、拉致される。
49年		〔4月〕「幸福駅」キップブーム。 〔8月〕過激派による無差別爆弾事件
50年		〔3月〕「山陽新幹線」開通。 〔12月〕三億円事件、事効成立。
51年		〔1月〕鹿児島で五つ子誕生。 〔10月〕王選手ベーブルースの本塁打記
52年		〔2月〕八重洲地下街で毒入りチョコレ
53年	・立教祭が学園紛争で中止され、学内展にて製作・研究の発表をする。	〔4月〕キャンデーズ解散。
54年	・広告研究会会則の改正を承認。 ・20回を迎えた学生広告展で、7部門に入賞。	〔1月〕初の共通一次試験実施。 「インベーダーゲーム」ブーム。
55年	・会員100名、OB名簿を整理し発行する。 ・5月31日 新設されたセントポール会館にてOB親睦パーティ。	〔11月〕王選手、引退。山口百恵、引
57年	・1月に30周年記念事業の話し合いを行なう。 ・8月27日 東京プリンスホテルで30周年記念パーティを盛大に行なう。	

会 の 出 来 事	広 告 界 の 状 況
〔4月〕銀座に森永の大ネオン塔。	＜昭和27～31年＞ 戦後の混乱からようやく抜け出して、復興が目に見えて進み始め、新しいものを加えようとする意欲が満ちてきた。増産態勢が整って、消費時代に突入しようとしていた。マーケティング理論が導入され、広告にも経験に頼らない新しい視点と考え方が加わってきた。戦後は終わったと言われ始めたのもこの頃である。
久保山さん死亡。 〔4月〕ラジオ東京、テレビ放送開始。 〔12月〕電気ガマ発売。 〔7月〕「経済白書」「もはや戦後ではない」	
〔5月〕フラフープ大流行。 発表。 〔4月〕皇太子ご結婚。 〔10月〕ニッポン放送、深夜放送開始。	＜昭和32～36年＞ 我が国は高度成長への道を歩き始め、技術革新時代と呼ばれた。マーケティング元年という声が高まり、消費は美徳とささやかれた。広告界はテレビの広告量が急増し、総広告費が大幅に伸びた。クリエイティブという言葉が使われ出したのもこの頃である。
〔6月〕安保阻止の国会デモで樺美智子さん死亡。 〔9月〕「ダッコちゃん」ブーム。	
ン。TV登録台数14万台突破。 〔6月〕「よろめきドラマ」ブーム。 〔12月〕映画「忍びの者」で忍者ブーム。	
る。 〔7月〕東京に水飢饉。 京オリンピック開催。	＜昭和37～41年＞ この時期、景気には波があったが、我が国の国際的地位は向上した。引き締め政策下でも、消費支出の増加が続いた。東京オリンピック大会が開催され、海外旅行も自由化された。東京一大阪間に新幹線が開通したのも、この頃である。カラーテレビ放送の全国中継網が完成した。その中で、広告の社会的批判が高まってきた。
〔11月〕新幹線 東京↔大阪3時間10分の運転開始。 げ、はがき7円、封書15円に。 〔8月〕フーテン族あらわれる。	
ズ佐世保入港。 学紛争続発する。 〔7月〕アポロ11号月面着陸。 号」乗っ取り。 〔11月〕三島由紀夫・割腹自殺を計る。 ャンペーン。 枯紋次郎ブーム。 〔10月〕パンダ2頭、上野動物園に。	＜昭和42～46年＞ 大型景気拡大の年、昭和元禄と言われる。この大型景気は4年も持続した。GNP世界第二位となり、外国資本の自由化も進んだ。順調な経済成長の中で、物価は上昇し、労働力は不足し、社会資本は立ち遅れて、公害問題が残った。コンシューマリズムが叫ばれて、反企業ムードが高まり、企業の社会的責任が重くなった。万国博が大阪で開催され、情報化社会への認識も高まる。モーレッツ時代と言われ、それが広告にも反映した。
〔10月〕「トイレットペーパー」パニック。 〔10月〕長島選手、現役引退。 流発。超能力・オカルトブーム。 〔5月〕「紅茶キノコ」ブーム。	＜昭和47～51年＞ 日本列島改造論で、土地ブームおこる。異常な物価上昇と、景気の過熱で、総需要抑制策をとる。そこへ石油ショックがおこる。たちまちエネルギー危機、そして省資源時代に入る。暮らしの価値観が大きく変わり、豊かなことは本当によいことか…の疑問が生まれる。成熟社会へ、実質的消費への傾向が強まる。ネオンが消え、意見広告、公共広告への関心が大きくなる。広告産業は、不況の中で17.7％増加した。
〔7月〕ロッキード事件で田中角栄逮捕。 録を更新。 ート事件。 〔10月〕円高戦後最高を記録（1ドル＝175円50銭）。	
退。	＜昭和52～57年＞ いわゆる、まだら景気の様相が続く。物価が落ち着き、企業の景気観が明るくなってきた。しかし消費心理は低迷し、所得は伸び悩み、住宅ローンや教育費が消費を圧迫する。若い人たちの購買意欲が沈滞した時代と言われる。それでも中流意識が台頭する。総広告費の伸びは、なだらかながら上向きを続けている。

広研今昔



＜座談会＞ 年代別に見た広研の歩み 29年～33年

広研はこうして生まれた

- ・日 時 昭和57年6月27日（日）
- ・場 所 目黒の室屋氏応接室にて
- ・出席者 29年 成田 31年 勝呂 32年 菅頭
33年 戸田
- ・司会進行 32年 室屋 世話役・現役 宮尾

本日はご多忙のところご参集いただきありがとうございます。昨年OB会長の藤井さんが亡くなられ、この時をきっかけに、広研のOB活性化を計るべきとの声が大きくなり、組織を強化すべく二代目OB会長として勝呂氏が選任され、下部組織も出来上がりました。

尚今年は広研誕生30周年という回り年に当たっており、

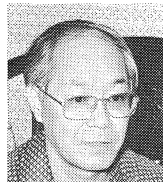
この節目を盛大に記念すべき年にしたいと故藤井会長は念願しておりました。

このご遺志をなんとか引継ごうということで役員一同協議してまいりましたが、結果は会報等すでにご存知と思いますが、記念パーティーと記念誌の発行の二つの行事が決まりました。

それぞれ担当幹事を決めて進めておりますが、記念誌については別に編集幹事が編成され、内容について討議された結果……そのうちの1つに年代別グループ座談会があります。さっそく進行させていただきますが、中心課題として3～4つ用意させて頂いておりますので、この辺から最初をお願いいたします。

―――広 研 今 昔―――

「キャンストに参加のために広研が生まれた」



司会 広研誕生のルーツと申しましょうか創立のいきさつについて是非明らかにしたいと思います。

本日は大先輩のS29年卒の成田さんが出席なさっているので、この辺については是非お話を伺いたいと思います。



成田 広研が30周年を迎えたということですが、本当におめでとうございます。

私も仕事にかまけて、OBとしての活動はほとんどいたしておりませんが、本当に申し訳ないと思っております。

今日のことにに関して、勝呂会長から連絡があり、是非とのことなので、私の責任の1つでもあると思い、出席させて頂きました。

お申し越の件……ですが、私の記憶の限りでは昭和28年かと思います。私の友人で早稲田に行っているやつから連絡があり、夏に海岸でキャンブストアを森永の後援でやっている……立教も参加しないかの声掛けがありました。

これが発端です。

私も興味を感じ色々話をきかせてもらいましたが、面白そうなので、やってみるかということで、友人1人を誘って具体的に研究してみました。

森永側にも紹介されましたし、学校側にも相談してみましたが、どのような組織でやるのが良いか大変迷いましたが、早稲田は広告学研究会というのがあって、これが主催しており、広告の実践的研究という題目で大義名分を立てているようでした。

従って我々も広告研究会を作って同好会として認めてもらい、キャンストへの参加を森永に申請いたしました。森永もOKということなので、29年の夏を第1回参加ということで、種々手続、勉強等を行ったことを記憶しております。

たしか部員を集めることが一番先なのでこの辺から始めました。最初は私と友人の2人でスタート、それから赤池さん、等々力さん、氏家さん達が、声掛けで入部し

て来たように記憶しております。

司会 ところで、キャンストが千葉館山に選ばれたいきさつを聞かせていただきますか。

成田 森永側で、立教には館山でやってもらおうということであてがいぶちだと思えます。

そのころ、早稲田が勝山、明治が保田でキャンストをやっており、立教には館山という構想がすでに森永では決めていたようです。

慶応は葉山でやっていたようですが、これは森永とは関係なくやっていたかと思えます。

（後ちに森永キャンストに参加することになる）

司会 館山に開設ということで、準備等が大変だったと思いますが……

成田 たしか2月頃かと思いますが、森永の案内で館山北条海岸を見に行きました。

ここが立大のキャンストの場所ですと示された時は大変うれしく、感動したのを思い出します。現在の道路もなかったし、今とは全く面影もなくなっておりますが……その足で、館山町観光課、その他地元の関係先へあいさつに行ったことを思い出します。

当時はまだ市ではなく町でした。

私達は4年でしたので、卒業していくわけですが……そのあとを勝呂さん達後輩に引継いでもらってサヨナラして学窓を出て行くわけですが……あれからご無沙汰してしまいましたが、30年もキャンストがよく続いたものだ、……今では良いことをしたと大変喜んでおります。

最近、50年頃から毎年仕事の関係で館山に出掛けておりますが、昔の面影は少しあるかと思えますが、大変なつかしい思い出として見せて頂いております。

司会 それでは成田さんにはキャンストは参加せずに卒業したわけですか……ところで勝呂さん……そのあとを引継いだそうですが、色々ご苦労話がありましたでしょう、その辺からお話をどうぞ。



勝呂 そうですね。もう卒業して三十年近くもたちますとあまり古い話ですが、はっきり覚えて居ませんが最初キャンブストアということで前例がありませんでしたので苦労の連続でした。

まず第一に参加人員が設営時7～8人だったでしょう

か、委員長が店長、マネジャー、仕入販売主任とすべて兼任でした。そんなことで確か設営より閉店までで（昭和29年7月16日～8月23日キャンスト終了）染野店長と私副店長は全期間館山ボケと闘いながら頑張りました。第二に最少限の資本金、約10,000円で商品仕入と若干の参加費用と生活費で色々の出費ですでに底をつき資金難と食量難で、部員の統制力は、減退する一方でした。第三に店の売上は、横ばいで弱り目にたた目とはこのことでしょうね……でも期間中の森永スイートガール嬢来日キャンペーンは、我々に希望と夢を運んでくれました。

司会 ところで当時の経済的世相等にみなさんでふれてみたいと思います。

昭和29年から33年ころという、もはや戦後ではないと宣告された時期で、経済的にも独立出来る状態になり、日本経済も大いに活気づき、経済的にも大きく成長するスタート時点ですね。朝鮮動乱により大にもうけた後多少デフレ的現象からインフレに入っていた時代で3種の神器もてはやされて、TV、冷蔵庫、洗濯機、掃除機が欲しい時期だったようです。

弱電メーカーの広告が大変目立つ頃でした。

広告業界も民放の（NTV）の誕生で活気が出たころでした。

少し、字をならべてみましょうか。

30年	国民総生産	9兆6000億	広告費	609億	0.63%
			35年	1740億	
			40年	3440億	
45年		70兆	45年	7560億	1%

- 産業界もマスプロダクション→マスセールの時代へ突入し（大量生産→広告→大量販売のパターン）
- マーケティング時代を迎えて、広告の必要性が高まる時期でした。
- 広告の社会的責任が問われる頃
- 広告代理店AE制度採用
- 三宅荘一の1億総白痴化論

司会 広研の今後の課題とか後輩の方に何にかアドバイスがありましたらどうぞ……

広告を生涯の life work としてとりあげて欲しい……興味と好学から広告を身近なものとして、生涯の研究テーマとしていくのは大変必要かと思ひます。

直接・間接的にも広告は生活に身近なものと思ひます。学問的に研究するのも良し life work として趣味的に勉強するのもよいと思ひます。

その意味からも、OBと現役のつながりが大事になるかと思ひます。

広研に入部して広告の関係業界又は業務にたづさわの方は大変幸せかと思ひますが、若い時に一度はもえた好學心をOB会を通して長くもえつづかせるような手だてとして現役の具体的な活動が、OBにひびいて来るような活動をして欲しい。

司会 広研に名指して求人が来る位に、立教広研の質を名実共に高める実績を作るべきかと思ひますね。



入社した筈です。

司会 広研OBの今後の活動課題についても……いかがでしょうか……30周年という大きなテーマがあり大いにもえたわけですが、これが終わったあと萎縮したのでは今回の精力的活動が全く意味がないことになりますね。

総勢500人の大世帯になったOB会も、あらゆる方面で活躍している様子は大いに頼もしい限りです。

縁あって広研に入部した同じ釜のメシを4年間たべたのだから卒業後も年度を越えたコミュニケーションがあつて良い筈です。皆さんどう思ひますか良い Idea があつたら……勝呂さん如何でしょうか。

勝呂 情報交換の場作りとして……例えばセミナー等の開設とか、色々専門的な分野で活動している人もいるようだし、又広告と関連した仕事をなさっている方も多いようですからその方々の話しを聞く会を開くとか……

戸田 最初は少人数でも、この種のものは続けることが大切ですね。2人でも3人でもよいから続けているうちにになにか得るものがあるものです。又チャンスもあるものです。

立教OBで広告関連業界で活躍しておられる方々がいますね。OB会に特別会員として入部してもらおうキャンペーンをしたらどうだろう。

現役の人達に大きなpowerを与えることになるのでは

司会 広研への入部の動機等についてお聞かせ下さい
“キャンストが魅力で入部”

戸田 入部勧誘のセールストークがたしか……キャンストに参加してみませんか？ 広告を勉強してみませんかだったと記憶しています。

キャンストにすごく魅力を感じて入部したと思ひます。海浜での経営なんですごくナウイ感じでした。

染野さんが近くに住んでいて電車の中での勧誘が効いたですね。

当時広告が学問として存在しているとは思ひていなかったし、チンドンヤ＝広告ヤ 看板ヤ＝広告ヤなんていう感じ位の時代だったかも知れない。

勉強するにも専門書も少ないし、広告事典なるものを古本屋でみつけて、読んだことを憶えています。

そういえば、部屋にもライブラリーされていて新入部員は読まされた……

菅頭 初めて女の子が2人入部して来てオオサワギしたよねオトミさんと、もう1人矢代さんね。

部員募集の宣伝にはこちらの方が大きかったのでは……（笑）

初代部長は小山先生

司会 広研の誕生のルーツが明確になったところで初代の部長はどなたでしょうか

勝呂 え、小山先生でした。

この業界に關係の深い方と云うことで小山先生が候補にあがつて、教授室にお願いに行った記憶があります。

司会 平井先生が部長になったのはいつでしょうか。

菅頭 小山先生が多忙になり、平井先生が小山先生より紹介されて、2代目部長になって頂きました。30年かと思ひます。

平井先生は社会学部の新聞学科教授でしてこの業界に關係があつた。先生は、江戸川乱歩のご令息で学校のすぐ裏に住まわれていて、お願いと、あいさつに伺ったこ

とを記憶しています。

31年キャンストで優勝

司会 菅頭さんキャンストは参加校のコンテストがあつて、立教は優勝しましたね。いつでしたかね。

菅頭 31年の夏でした、店内装飾と会計処理面で秀れているということでした。優勝を祝って、新宿で、飲んだでしょう。写真がありますよホラ……

同志社広研とエール交歓

司会 広研での生活中で強い思い出がありましたら聞かせて下さい。

勝呂 同好会なので予算がなく苦しかったのを覚えています。部費あつめのため、アルバイトをやったりスポンサーをみつけて、広告に關係する仕事を少しやりました。

例えば、行きつけの喫茶店のマッチ作り、メニュー作り、広告会社の市場調査、デパートからのユーザー調査、局の視聴率調査、森永だったかクイズハガキの整理etc.

司会 同志社広研とエール交歓したのは、何年でしたかね。こちらからも出かけて行きましたね。どなたが参加しましたっけ。

菅頭 赤池・氏家の兩人が出かけたのではないのでしょうか。初めてのことで、とまどいがあつたと思ひますが広研としては、こちらが先輩格だったので、いろいろと広研のありかたを聞かれたようです。

司会 本日は本当にありがとうございました。

お蔭で、大変、貴重なお話しを聞かせて頂き助りました。

当初懸案でした広研の誕生及びキャンストのルーツが明確になり、ありがとうございました、夜もだいぶおそくなったようですので今日の座談会をこれで終わらせて頂きます。

思い出すままに

昭和34年卒

宮 下 洋

部創立30周年という。思えば昭和33年に委員長を務めさせていたゞいてからすでに27年の歳月が流れているわけである。今更ながら月日の経つことの早さを知る。

ともあれ、おめでとう。をいわせていただく。OBの一員としてやはり嬉しい。

当時は、まだ広告といっても、新聞広告と看板くらいのもので、何しろ民放がなかったわけですから。コピーライターなどという職業はまだ認知されておらず、ネオン見学会と称して、銀座へネオン見学に大挙して出かけたりしたものです。お笑いになってはいけません。まじめな、広告としてのネオンのことなのです。地球儀がまわる森永製菓のネオンが目新らしく、和光のショウウィンドは、もう活躍していました。

マーケティングという言葉が上陸したての頃で、我々は広告関係の本をあさり歩いたものです。

思い出すまゝに少し創成期の広研についてつぶってみましょう。

立教大学広告研究会にするか、立教大学広告学研究会にするかで議論があった記憶があります。広告学という体系づけられた学がまだなかった頃のお話です。

東京四大学広告連盟が設立されたのは私の時代です。立教広研の林君が初代会長に選ばれ、慶大の村田昭教授が、まだ新進のこの道の少壮学者として慶大広研の部長をされていました。因みに立大広研の部長は小山教授から平井教授に変わったのも私の時代です。東京四大学というのは早慶明立で、それぞれ、勝山、葉山、保田、館山で、森永学生キャンプストアで腕を競ったものです。この頃はコンテスト形式で、対抗意識を燃やしたものです。

部員はあまり多くなく20～30名、常に部室に顔を出していたのは15～16名だったのではないのでしょうか。新入募集のオリエンテーションでは「学生生活を150％楽しもう」のキャッチフレーズで、長身の山本君が壇上から呼びかけ、多数の部員が集まったことを覚えています。

部紙を創刊したのは私です。編集は私一人、ガリ版刷り（印刷屋に頼んで）4～8頁のものでしたが十数号出しました。残っていれば面白い資料でしょう。座談会の速記録などのせました。ソニーがまだ東通工といった時代で、大きなテレコを誰かが借りてきてくれて使ったものです。女性の部員が入ったのは我々の同期からで、看

板美人2人娘は、部の雰囲気を大いにやわらげてくれたものです。もっとも、隣の部室が放送部で、もっと美人（失礼）の野際陽子さんなどが活躍していたのです。

女性といえば、森永学生キャンプストアにはじめて女子部員を参加させたのは私の責任においてです。親御さんに了解を得て、別に宿舍を借り、気疲れはしましたが大成功でした。以後女子部員の参加は普通になったようですが、はじめてということはやはり大変なことだったのです。

キャンストについての思い出はつきぬものがあります。きっと他のOBの寄稿にも沢山でてくると思いますので私は簡単に触れます。

私の店長の年から、海岸の店の前の砂浜に道路ができました。昭和33年は冷夏でお客はさっぱり、随分部員に有料の氷あずきなど食べてもらったものです。それでもスイカ割り、黒ん坊大会、映画会、ダンスパーティ（といってもフォークダンス）写生会、相撲大会など、おまつり好きの岡村君など大活躍で、毎週盛沢山な行事をこなしました。

後年になって、歴代店長に、館山ご招待状が参りました。喜んで出掛けました。ご招待といっても、「是非お出掛け下さい、宿は有料で用意します」ということだったのですが、楽しい1泊2日でした。この時には、当時の店長の絶対権限にびっくりしました。いつも青竹を持っているのですから。部員も多くなり、運動部並みの統制が必要になっていたのでしょう。

文化祭は11月でした。故藤井先輩率いるデザインチームが部室の前で、酒コップ片手に出品のポスターや、実行委員会や他の部に頼まれたディスプレイを作っておられた姿が今でも目に浮びます。

私が2年生部員の時から京都の同志社大学との交歓がはじまりました。私は田中先輩について、同輩の遠山君と、同志社大学の文化祭を訪問しました。京都案内をしてもらったことは勿論です。立大の文化祭には同志社大学からやはり数人が見え賑やかに議論をたゞかわせ合ったものです。

こうやって書いていると、次から次へと色々なことが思い出されます。諸先輩、そして後輩諸君の楽しい文章を早く読みたいと思います。又、書く機会がほしいとさえ思います。

同期の桜たち

昭和35年卒

宮 田 靖 匡

35年度は総勢14名で卒業した事になっている。この時代としては、ずいぶん人数が多い方である。おしなべておとなしい人種がそろったのだろう。学校から呼出しを喰ったり警察のごやっかいになったりした大物は存在しない。

まず委員長をさしおいてもご紹介いたしますのが「花の35年卒」の紅一点、西島優子（旧姓）さんである。いっとき行方がわからなくて、戸田、田中、林、岡村といった先輩連中から「早くさがせ」といわれ、やっとの事で電話で連絡がつき大変なつかしい思いをした。今では大学生二人を持つ式村夫人となっている。今から思うと「バンカラ」な同期生にうんざりもせず良く卒業までガマンしたものだと思う。

さて委員長をつとめた山元清朗君は、機械いじりが趣味を通り越して道楽となったご仁で、キャンストの電気配線は照明からマイク、レコードとすべて一人でやってくれた。草野球では、ピッチャーで四番を打っていた。普通、委員長といえば、ライトで8番位におさまっている所だろうが、大人気なくも文字通りお山の大将だった。骨に皮がからみついた様な細い体で投げってくるボールが早くて逃げるのに精一杯。

副委員長でキャンスト店長の田中一実君は山形から上京して東長崎に下宿していた。広告代理店の万年社を経て、現在山形テレビの制作部長をしているが、学生時代から絵が上手く工作が得意で木切を集めてウクレレを作ってしまう程だった。裕子夫人は館山海岸のヨットが縁となったのも同期の連中は知らないものがない程のロマンスだった。今は山形に住んでいて一家全員がスキーの達人であるに違いない。田中君と同じ社会学部のクラスに西島さんともう一人会計の大内道雄君がいるが、大内君の父上は神父であった。にもかかわらず彼は大酒飲みで、余り酔った処を見た事がない。名会計で彼の渋い顔を見ると一同気がめいってしまう程だった。かなりバンカラだった大内君が、卒業後同期の連中で館山へ遊びに行った時、同じ会社に勤務する可愛い感じの美人を連れて来て、他の連中を大いに刺戟したが、その美人が奥さんとなった人である。彼の結婚式は、父上の奉職されていた阿佐ヶ谷の教会で行われた関係で、禁酒禁煙の結

婚式だったが、とても楽しい結婚式だったと記憶している。デザイン部のチーフは田中君だったが理論部チーフは、高田勉君から谷恭司君に引きつがれたと当時の会報にのっていた。高田君は背が余り高くなく、笑顔がきれいだったせいか先輩連中から特に可愛がられたのは良いが、新入生のための各部紹介のオリエンテーションで故藤井先輩にかつぎ出され、広研紹介の寸劇でトイレでウンチングのパントマイムをさせられた大物である。恭谷司君は逆に背が高く、一見文学青年風だったが、理論部の全員でプランをたてた「消費者の広告への感心度」という調査の中心人物だった。その当時から広告業界に身を置こうとする意気込みが違っていたように思われる。

現在では父君と共に（株）日本スタデオの経営にたずさわっている。吉見君も理論部で活躍した人物で、谷君や高田君共々理論部の中心で苦労した男である。岡山県出身の彼は、終始おだやかで後輩達からは抜群の人氣があり、ガサツな連中の中でひときわさわやかな印象を与えていた。現在岡山へ戻って家業を継いでいるので同期の中では一番遠くにいて活躍している。山本信吾君は八木君や谷田部君と共に、同好の志で作ったハワイアンバンドのコナ・アイランダーズでギターをひいていた。野球が上手で当時庶務を担当していた。つい最近になってゴルフを皆で楽しんだが同期の中では一番うまいようだ。谷田部義高君もギターをひき、色白の美男子——とはいかないまでも、キャンストでハワイアンのタベなどに出演して大いにもてていたようだ。ギリシャ、エジプトの歴史にくわしく、話し出したら30分位は軽く講演してくれる。コナアイランダーズのスチールギターをひいていた八木孝君は谷田部君と四大学の連盟の理事をしていた。大の酒豪で、山元、大内、吉見、山本君等と酒豪番付を競っていた。

浅草っ子の根岸稔郎君は学校を卒業してすぐに喫茶店を開業したがデザイン部の連中がメニュー等を書いて手伝っていた。現在では立教小学校へ通う一児のパパとなり、もともと天然パーマ（言葉が古いね）の頭にロヒゲをはやしたため、ロッキー青木のような顔をしている。今では「ねぎし」という喫茶店を数店持ってガンバっている。

滝沢重寿君は部活動には余り活躍はしていなかったようだが、キャンプストアになるとガ然張切り、人気者になっていた。卒業後会計事務所に勤め、現在は独立して税理士をしている。先日、都内にいる同期生と会合を持ったが、胃の手術後だったのに出席してくれて、一同20数年ぶりの再会を大いになつかしんだ。

満尾秀隆君も社会学部で田中君等と同クラスで、底抜けに明るい男だ。なかなかのハンサムでキャンストでは地元の女子高校生に追いかけて、トイレに逃げ込んでいた男。

現在は茨城で特殊印刷の仕事をしているが、数年前、一年先輩の岡村氏をひっぱり出してゴルフコンペを行ったが、ゴルフ場が満尾君の家から30分位の所なので、夜彼は奥さんに料理を作らせて重箱に入れ一本ぶらさげて会いに来てくれた。一晚ゴルフ場のロッヂに彼も泊ったが、ゴルフをしない満尾君と翌朝わかれるのが申し訳



けないような気がした。我々同期の連中は3～4年に一回位、思い出した様に旅行をしているが最近はゴルフ狂が増えたのでゴルフを兼ねた旅行になってしまっている。花の35年卒！これから一生仲良く楽しい同期会を開こうと思っている。田中君のいる山形や、吉見君のいる岡山で同期会をするのも面白いだろう。その時はひとつたのんまっせ！

(ここまでの文章を書いてくれたのは、宮田靖匡君です。宮田君は立教高校バスケット部卒のデザインと音楽志望のソフトな男でありました。人をそらさぬ巧みな会話とやさしく甘いマスクで、皆のまとめ役をこなして居ました。日産自動車に就職し、今はバルコジャパンという保険代理店のオーナーとして活躍しています。現在はウクレレよりも、エコーマイクの方が好きになったとか…山元)

広研の青春

— 36年度卒業 —

立教祭のムードを作るのは、広研の仕事、校門や校庭の飾りつけを作るため、他人様の物は自分の物よりしく失敬して、絵具をぬりまぐった。

◇ ヤミナベのぞうり、オブジェの材料探し、丸物デパートの市場調査、電通後援のネオンサインの映画作、理論部発表のものすごいエネルギー、そして、トーチムポールにモニューメント。

◇ キャンプ・ストア 生れてはじめてのヨット、素人ハワイアンバンドの先輩にあこがれ、四十八匹の磯釣り。下宿のみ退治のDDT、ジュースの中のウイスキーで酔っぱらって腰ぬかし。

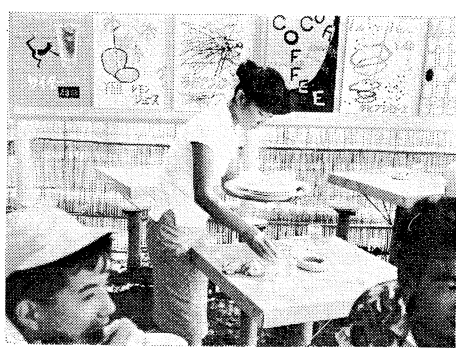
◇ 立教祭 ござを敷いただけの板間が、



立教祭



女子の下宿、夜ごと虫達に悩まされ、朝は先輩のこわい朝礼に海岸を走った。急増した女子部員に「んやわんやの毎日でした。恋…そうです、恋もいっぱいありました。」



キャンプストア

◇ 京都市訪問、春日神社の鹿とたわむれたり。来京の同大生との他校訪問。手紙の往復に心をときめかしたり。

尾瀬めぐり

◇ 新入生歓迎会や、尾瀬ハイキングなど、良くあちこちに行きました。ビシヨヌレのハイキング。山小屋で一枚のふとんに三人のごろねにがっかりの女子部員。日本一周旅行の先輩の車にちよこつと乗ってワクワク。

◇ 山歩き好きの連中が集っては、毎日のようにあちこち歩きまわったうちのひとつ。試験の終わったすぐ後の夜行で行ったり、よくぞ若さといいたいたスタミナのかたまり。

同大交歓会

◇ 交歓会後のおつき合ひも盛んになり、女子部員のいなかった同大生にとって、当方は珍しい存在だったようです。

部室

◇ 狭くて、きたないけれど、我が家に帰った様にほっとする所ね。

◇ 二十四年前の部室は、男子が多かったためか、ほこりと資料の山。今は、見るかげ？

もなく、ウツクシク…女子部員の少なく、又、女子部員のモテる、女子部員の珍しかった時代。広研——我が青春のすべて。

○春日・日高◇

あとがき



同志社大交歓会

我年代は男共が筆不精の為、全面的に女性に執筆願いました。男の方にも数行残してくれたので、各人に一言ずつ語ってもらいました。戸田—キャンスト、立教祭、藤井のダンナ。村木—浜辺のアノコは良かったナア

細井—浜辺で、アイスを買ったナア
梅津—森永から貰ったヨットに一番乗ったヨ
今野—ヤア失敬、俺何やってたっけ。
以上が我々の広研時代のすべてでした。

梅津



尾瀬ハイキング

雑 感

昭和37年卒

伊 藤 隆 一

卒業以来、早いもので23年が過ぎてしまったわけである。我々の時代を述べる前に、先ず現在と当時の時代の差を認識して頂く必要がある。当時と比較するために、金銭対比で見ると、国鉄一区间10円、ピース一箱30円、学食の素うどん10円、最高値でも、シシリアン50円、なつかしの満州里のラーメン、もやしソバ50円、西口のトリスパーでは、ハイボール50円、そういった時代であったわけです。一方、時代背景としては安保闘争の第一期と言う様な時代で、デモにも積極的に参加し(広研として参加自分達でブラカード作成し、リクリエーションのような気持で参加したように記憶している)、社会党が共産党から、解散地点で牛乳一本とコッペパン2ヶ入った袋をもらったり、デモ参加費として、2、3百円のキャッシュが出たりしたものだった。しかし、忘れられないことではその当時の最も攻撃的デモが国会攻撃をし、樺美智子という学生が亡くなったことだった。明るい話では我々が大学に入学してから、2年の秋期リーグ迄、六大学野球で完全優勝を含む、四連覇という偉業を成し遂げたことである。

当時は、日本経済の膨張期であり、広告ブームのはしりの時期でもあった。我々の知る限りにおいては、入部当時、先輩全員で30名程度、新入部員30人で、世の広告ブームに乗り、部活動も活潑に大きく伸びた時期であったろう。反面、今でも思い出すのは、文化会のサークルでありながら、全く、アカデミックというよりは、アスレチックであったわけで、何かにつけてスポーツをし、そのあと、ビール、酒、やみ鍋というようなコースが多かったようだ。先輩諸氏で、そういった方が多かったためと思う。その為に、校内球技大会では、グランドホッケー、バレーで優勝したり、サッカーは準優勝、野球は連盟の野球大会で優勝したことを覚えている。

我々が一年の時から卒業する迄、久保田宣伝研究所の久保田社長(当時)からいろいろと御指導頂き、広告理論の勉強から、広告業界の実践の方々を紹介下さったり、学生としては考えられない程、具体的な面での実業界との結びつきが出来たように思っている。

東京学生広告研究団体連盟の理事校としても、3年当時、巾広い活動をし、西武デパートで第一回、学生ポスター展を開催したりもした。文化祭(立教祭)では、

広研として初めて、展示会場を本館に与えられ、華々しく、サークル活動の発表を行い、同時に著名な広告人、久保田孝、ケンニルソン、大智浩、市橋立彦、等々招待し公開講座を行い注目された思い出もある。学内の文化会にも広研より、2名の理事を送り、学、内外を問わず非常に活発な活動を行った時期であったと思う。我々が二年次に、一年後輩の女子学生諸姉が、大挙して広研新入部員として、登場した。それ迄は女子部員は、各年次にそれぞれ1、2名いただけであり、その上、広研のムードは、故藤井氏に代表されるパンカラムードで男っぽかったため、いちどきに花が咲いたわけで、先輩諸氏も、部活動に急に熱心になっておられた様だった。



広研の思い出の中でのハイライトは、誰しも、やはり館山のキャンプストアではないだろうか。我々の時代はキャンスト生活は地域社会と密接な関係の上に成り立っていたと言えよう。今程、北条海岸は人出が多くないし、東京から避暑のため、夏の間長期間滞在する家族が多く、そういった家族とキャンスト全員を含めた交際もなつかしい思い出で、同時にこういった人々とのおつき合いは、とりも直さず栄養補給の手段でもあった。女学生の3、4名のグループが良くキャンストに現れ、彼女達と友達になって、発展し深いつき合いになった連中も居れば、家族ぐるみの交際の中から結婚に到った仲間も複数にのぼっている。

ちなみに、田中先輩、早崎、秋山、等である。キャンストでは、隣の加山ボートハウスのヨット賃料が1時間300円だった。ヨットの船頭を頼まれると50円もらったり楽しい思い出が多い。又、キャンスト活動の思い出では店の行事がそっくり、市の観光課の行事にあって、市の予算を使わせてもらったり、市長招待で一日店長になってももらったり。東京都の孤児院施設の保田孤児院の子供達を一日招待し一緒に遊んでやったこともある。

この子供達とは、その後も暫く文通を通じて心のかよいを続けていた。写生大会、水瓜割り、ラジオ体操、その他文化会から交響楽団、アヒル会、コーラス等を招び、特に交響楽団の演奏会は館山市始って以来のオーケストラ演奏ということで、入場料をとって、地元の愛好会グループの協力と小・中学校の推せんで、大々的な催しになった。当時は、森永製菓の後援で開店をしており、慶応、早稲田、法政、明治、立教、青山の六大学で、売上げ競争があり、立教は60万の売上げで2位に甘んじた。

まだまだ、言いつくせないが紙面の都合もあるので、思い出はこの位にして我々の同期のプロフィールを紹介

すると、副委員長の黒いオブジェ、杉本、連盟理事長のスポーツ男、塩野、キャンスト店長でキャンスト結婚の早崎、同じくキャンスト結婚のデザイン部秋山、心理グループチーフの女性心理にたけた広研部内結婚一号の有枝、キャンストで炊事当番の日に女学生をボートに乗せて転ぶくし、泳げない女学生を見放して水に浮いた食事代のお金を懸命に探した罪深き男、吉政、富沢薬局の女性と夜な夜な砂浜で恋をさゝやき合った副店長前園、閉店後風呂にも行かず売上集計に励んだ会計の新井、小沢、今だに文化会ヘスピンアウトさせたとブーブー言い続けている文化会幹事の上杉、細川、当時からオジイと言われ年をとらない中島、ダンスパーティーで金もうけばかりしていた越森、大富、当時から大人のフニイ気を持っていた木場の若だんな高木、同じクラスの女性と結婚した宮田、デザイン部チーフの大橋、チャキチャキの江戸っ子で今では学生時代よりスマートになった石井、それと委員長をやった私、女性をよくさそうが、最後までめんどろを見ない男伊藤の十九名、今や青春の思い出にひたる、花の中年男達である。



いま忘却の彼方より

昭和38年卒

松 沢 宏太郎

十年一昔前とはよく使う言葉であるが、二昔前のクラブ活動の内容を書かされるとは酷な話である。なぜならその頃授業を受けた経済学、経済原論等も全て忘却の彼方であり、四年間を通じて今もなお胸の中に生き続けており時々夢にまで出てくる事は、クラブ活動を通じてのキャンパスでの楽しい思い出である。

当時広研の会員は160名、内女子会員は60名の多きを数え文化部系の中では華やかな部であった。が反面研究活動に対しても具体的な内容は記憶が薄い、理論部、デザイン部とも一部会員を除きまじめに取り組んでいた。特に小生は理論部に籍をおいていた関係で当時の広告代理店である近畿広告社（現在の大広）との間でアルバイトを兼ねた生きた調査分析を体験、現在マーケティング業務にたずさわっている為、当時の経験の一部は今もなお役立っているといえる。

又秋の京都同志社大学広告研究会との交流も忘れられない思い出である。毎年お互の文化祭に招待、交歓会を開くわけだが、我々広研からも毎年15名程の会員が参加

した。現在の様に新幹線で3時間というわけにはゆかず急行「銀河」「明星」等の夜行列車で12時間がかりで京都迄遠征(当時の学生の旅は普通列車が常識、急行に乗る事は大変贅沢であった)ディスカッション、スポーツ、飲み食い、お互い大いに氣勢を上げた。当然「東男に京女」ロマンスもめばえ、夜の京都駅での別れの情景(小生ではない)は今も良い思い出の一つとして残っている。

我々の学生時代は昭和34年～38年3月迄60年安保闘争の最中である。丁度現役の皆様が生まれた頃になる。卒業後20年現役の方々からみれば「オジン」にみえるであろう。しかし我々皆同様と思うが気持は若さが漲っているが感覚と身体がついていけなくなっただけである。それだけに学生時代の利害関係のまったくない楽しい思い出が時として胸をよぎる。現役の皆様もいずれは、この時代を迎える。

学生時代の良き思い出はクラブ活動を通じより良き思い出が出来上ると信ずる。一生に一度のこの時期、大いに有意義に過される事を祈る。



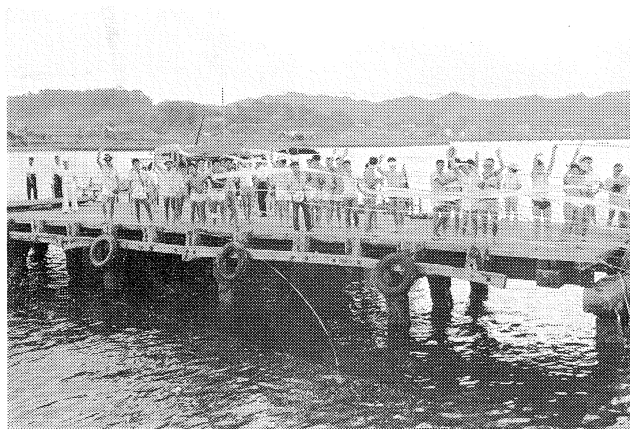
「私だけが知っている」

私は、北条栈橋です。……私だけが知っている事、それは、あなたとあの人が、星の輝く、波静かな海を夜光虫がデザインする夕べに、そっとささやいていた愛の言葉も、あなたが一人寂しく、ホームシックをいやしていた事も、あなたが憤懣やるかたなく、愚知をこぼしていた事も、ホロ酔い気分で神聖なる歌を歌っていた事も、あなたがイキがって飛び込んだ事も、すべて私は知っている、でも私は誰にも言わない……。

私は、館山栈橋です……私だけが知っている事、それは、送る人、送られる人、あなたも泣いたあの人も泣いた。そしてA君も、Bさんも泣いた。悲しさをこらえ、校歌をうたい、別れの歌をうたう。船が出る。あなたはジーッと見ていた。あの人の顔を、船がなおも離れる。あなたの目がうるむ、そしてあの人の顔がゆがんで見える。あなたは

はその時、「さよなら」といった。あの人も「さよなら」と答えた。船は速力を速める。あなたは栈橋の一番さきに行く、あの人が力強く手を振る。あなたも振る。あの人がだんだん小さくなるあなたはなおも手を振る。あの人は見えない。あなたはボートと水平線の彼方を見つめていた。船は消えてしまった。あなたはジーとしていた。しばらくして、あなたはふと我にかえり、あなたは重い足どりで栈橋を後にした。すべて私は知っている。

でも、私は誰れにも言わない……。



私はカウンターの帽子です。……私だけが知っている事、それは、あなたがロスを作る名人であった事も、あなたが売上を気にしていた事も、あなたがあいつとカリカリしっぱなしの時間を過した事も、あなたがつまみぐいをした事も、あなたは、いそがしくなると歌をうたいだすことも、ブツブツいいだすことも、あなたがあの人にウインクした事も、ほらあなたが石油入りの氷あつぎを作った事も、ハエ入りの「ラビヤン・ローズ」を作った事もすべて私は知っている。けれども私は誰れにもいわない……。

私は館山の星です……私だけが知っている事、それはあなたが門限に遅れてそっと帰って来た事も、そっと下宿をぬけだして屋台のラーメンを食べたことも、あなたが夜中にふらふら起きて酔ぎの水をのんだことも、あなたが門限十分前踏切りがしまつて、ヒューヒューしていた、しまらないしまった話も、そして夜中にM君の「お母ちゃんアチー

ヨアチーヨ」も、O君の「いらっしやいませ」経つこと20分「アリガトウゴザイマシタ」と、I君の「校歌」そしてあなたのいった「〇〇さんもすべて私は知っている。だけれども私は誰れにもいわない……思い出多き1961年度、キャンプストア「しまらない話」「ヤマヤマママ、好きヨ好きヨ」「ウチントコ」「ジョウダンジャーネエヨ」「ソレガ親分大笑い」「実は花色木綿」「コンチイカガ」

思い出をあなたの胸に、そっとしまつて……私達は来年も、皆さんをお待ちしてあります。

デザイン部と理論部に二分化

昭和39年 卒

木 邨 真 敏

昭和38年，39年というのは，朝日新聞に見る日本の歩みによれば，「高度成長への信仰」ということで，所得倍増を信じ，日本全体が経済，文化，スポーツにのりについていた時代であったと思う。

我が，広研も，我々が現役3年の時，入部してきた，新入生が百二，三十人ということで，総部員数200名以上の大所帯となった，いま考えて見ると，入部した人たちも，驚いたことだろうが，入られた我々もびっくりしたものだ。これだけの人員を広研というわくの中で一年間，ワッショイ，ワッショイやって行くには，日常のアカデミックな研究活動？をデザイン部，理論部と分け，さらにこれらを細分化して，対処し，また，女子部員の急増にそなえ，美貌の女子副委員長を置いたり，また3年になるまえの春休みに理想のクラブ活動を追求すべく3年生全員で清里の清泉寮に合宿をしたり，やはり，ノンボリの代表とまでいわれた広研をささえ，まとまった学生生活を送ることが出来たのは，キャンプストアがあったからこそ，だと思う。

当時館山は，まだ，当キャンプストアの前が館山海岸のメインビーチであり，それこそ，青い海，青い空，白いヨットの帆しずむ夕日，夜の空は星がまばゆいほどきれいだった。海には夜光虫がひかり，すべてが，ハッピーであった。そして，キャンプストアは，とにかくいそがしかったと記憶している。売上は120万円ぐらいだったと思う。フロ代が当時23円で，現在が230円とすると10倍であり，いまの金で，1,000万円近い売上げがあったのだ。当時は，ピンとこなかったが，ふりかえって見ると，相当なかせぎをしたものだと思う。

お金の話しはよしにして，スケジュールとしては，一週間単位で一年生を，二週間単位で二年生を受け入れたと思うが，昼ごろの汽車で，館山に着いた。

新入生は，不安と期待を胸に下宿に割りふられたが，一週間後たちばな丸にのって帰るころには，精悍な黒々とした顔に変わり，船のドラに送られ，はたるの光がひびきわたるころは，送る人，送られる人も，なみだ，なみだの，シーンがあちこちにテープが何本もとびかう光景は，キャンストのクライマックスであった。

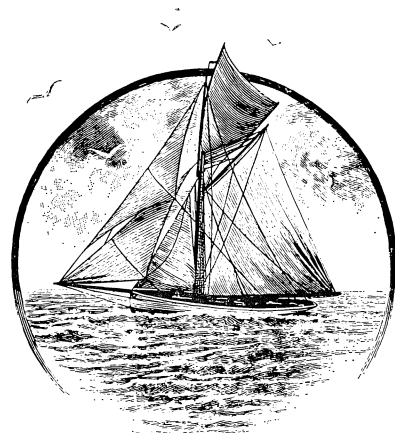
また，一日の生活様式は，7時に，キャンスト前に集合，ランニング，体操，8時，朝食，朝食後，1時間，

学習及びミーティング，9時30分，再び集合，開店準備，10時校歌を歌って，開店だったと思う。勤務は2時間交替で，フォークダンス等の催事がある時は，9時まで営業だった。かなり，ハードなスケジュールであったが，勤務外，及び閉店後のわずかの時間を利用して，夜は飲み語らい。

昼はヨットに，スイミングに思い出をきざんで，青春を謳歌した。カット，カットが目浮かびます。そして，キャンストの集大成である，キャンスト慰労会を9月某日，芝，八芳園において，20数万円の巨費を投じて参加者全員で行い，キャンプストアのすばらしさをたたえたことも楽しい思い出である。

そして秋の立教祭へと続く，秋の立教祭は，広研の活躍の場である。学内のオブジェの全てを請け負い，一週間前ぐらいから，大工仕事でトンテンカン，トンテンカンとオブジェ作りで，デザイン部門の創作力？の総集計であり，また，確か，時計台の2階の教室が広研の発表会場だったと思うが，ポスター，その他アカデミックな発表（残念ながら理論部は何を発表したか忘れた）を行った。

以上が，39年度卒の我々の時代であり広研の良さは，あまりものごとにこだわらず学生らしく，いいかえれば立教生らしく，学生生活をエンジョイさせていただいたことに改めて，広研に感謝するおもいがいっぱいです。



O B 係を新設

昭和40年度委員長

杉 田 復二郎

当時，日本経済をとり巻く情勢は，貿易の自由化はもとより，資本の自由化をも含めて，市場開放を求める外圧は非常に強まってきた情勢にあったように記憶します。

わが広研は三年連続して時代に即応した“輸出入品広告の生態”を研究の統一テーマに，また意識テーマとして“旗印を鮮明に参加意識を”を定め，これらを軸に後述いたしました運営上の諸々の問題を抱えながら，楽しかった学生時代を懐しんでみました。

(1) 組織の新設

サークル活動における最大のテーマは，コミュニケーションの活発化です。

O Bと現役，上級生と下級生，同学年同士，女子と男子部員，それぞれ縦横にコミュニケーション化を図らねばなりません。その目的達成の手段として学年ミーティングおよび女子相談役の新設，そしてO Bとの交流を密にせんがためO B係を新設いたしました。

(2) 運営費の逼迫

①朝日調査の援助打ち切り

前年度より憂慮されていた援助打ち切りが現実問題となり，調査費用の捻出方法および調査の内容不足にまで発展し，三年連続した統一テーマの集大成を明言した私ども役員の動揺は相当のものでした。

②館山の土地購入問題

私どもが役員を引き継ぐと同時に，この問題が持ち上がってきたわけです。

キャンストは広研の歴史であり，土地の既得権を放棄することはキャンストの廃止を意味することでありました。そのことは広研の歴史に汚点を残すばかりでなく，過去十数年，諸先輩の築かれた礎を根本からくずすことであるという役員の総意であり，店長の強い決意のもとに外部借入を資り，キャンストの純益より返済との約束で，なんとか窮地を脱したわけです。その折，立教学院の管理課にも大分お骨折りをいただき，館山の土地は学校法人立教学院として登記済であることを改めてご報告いたします。

(3) 会則の改正およびO B会規約の承認

従来の会則は小人数の時のものであり，マンモス化した当時の広研に適合しない部分，つまり部員の参加意識の低下の問題であり，それを是正するため，諸々

の改正を行ない，その一部に主役員の公選制も実現いたしました。そして，確立されていなかったO B会の規約の草案を作成しO B会総会において承認されたものでした。各々の会則の作成に当り，前年度委員長を中心に各学年代表2名，当時の委員長，副委員長，会計13名にて小委員会を組織し，一挙に改正および承認へと事を運んだ記憶が，昨今のように思い出されます。

(4) 理論部，制作部の特別企画

理論，制作，両面にわたり，参加意識の向上と研究活動の方向の模索を主目的として，理論部主催で電通の制作局長を招いての講演および討論会，制作部主催で画廊を借りての制作発表会を行ないました。これは後述の学生広告展を念頭に置いての発表会でした。

(5) キャンストの方向

本来的意味での合宿生活の充実と社会性の向上を主眼として，研究活動の実践化，普段の部員間のコミュニケーションの欠如の補足，および地域住民学生の立場からの利益還元を実施したわけでした。

余談ですが，今でも忘れ得ぬ事は，先にも述べた館山の土地問題は，当時若干20才前後のわれわれにとって荷の重すぎる問題であり，その解決に9カ月近くかかり，当時の店長柳沼君は過労でキャンスト途中病に倒れた。彼にとって無念の一語に尽きる思いであったろう。小生にとっても忘れ得ぬ思いの一つです。

(6) 学生広告展

前年度広研史上初めての総合優勝が達成され，立教広研の実力が内外に広く知れわたりました。それゆえ制作チーフの意気込みは相当なもので，前述した発表会をテストケースとし，広告展に参加し，幸いにも二年連続優勝を成し遂げ，祝勝コンペを盛大に行なった事が懐しく思い出されます。

以上の経過を振り返ってみた時，ともに苦しみ，悲しみ，また喜びを分かちあい，困難を切り開いていったことを思う時，まさしく学生時代であったと思うのです。

小生は，この年度の活動を決して誇示しているのではなく，当時が広研の現在につながる一ページであって欲しいと切に願うものです。